

あなたは授業中にどのくらい消しゴムを使いますか？

みんなの授業に取り組む様子を見ると、「授業を大切にすること」ができていない人がほとんどのようです。学力を高めるために、さらにこれからの授業でみんなに心がけてほしいのが、「授業を活用する」という意識です。よく、「授業は受身ではいけない」、「積極的に授業を受けなさい」といわれますが、その方法がわからなければ積極的に授業を受けることはできません。積極的に授業を受けるというのは、「授業を活用する」意識で授業を受けるということです。ではどのようにして授業を活用すればよいのでしょうか。今回はそのひとつを紹介します。

授業を活用するために、「**授業でやってはいけないこと**」をあわせて確認していきます。
まず一つ目、

①練習問題が出されたときに、**自分で考えようとはせずに、友達や先生が書いた答えを丸写しすること。**

もし君が答えを丸写しする生徒だとしたら、君はいったい何を恐れているのですか。授業内で間違えることが嫌なのですか。授業内で間違えることは全く問題ではありません、というよりむしろ授業内では間違えたほうがよい場合もあるのです。授業内での間違いはインパクトがあり、記憶に残りやすいため、テストのときに同じ間違いをせずに済むのです。もちろん何も考えずにあてずっぽうで答えるのは意味のないことです。「自分の頭で考えてたどり着いた答えならば、間違えてあってもとても意味がある」のです。

二つ目として、

②ただその**間違いをそのままにしておくことは決してしてはならない。**

なぜ自分の答えが間違えたのかを理解して確認すれば、記憶に残ることにつながり、テストのときに正解を導くことができるし、今後上級生になって受験勉強をしたときには、「ああそういえば～だったな」と記憶を呼び起こすことにつながります。

これが授業の活用の仕方のひとつであり、定期考査の勉強を楽にする方法であり、受験勉強の土台作りとなるのです。

それともうひとつ、

③自分で問題を解いてノートに答えを書いたときに、**消しゴムを使うことはやめてほしいのです！**

上でも述べましたが、授業中の間違いは貴重な宝物なのです。消しゴムを使うことで宝物を失うことになるかもしれません。簡単な例を挙げて説明します。次のような出題があるとして、

She must study hard. (下線部を別の2語で書き換えなさい) この問題に対して、自分で考えて「must は have to と書き換えられるから She have to study hard. だ」とノートにその答えを書いたとします。ここで自分で考えて答えを見つけ出すというプロセスはとてもよいことです。次のステップは答えの確認です。もし先生が黒板に She has to study hard. と書いたのを見て、消しゴムを使って have を消しゴムで消して鉛筆で has と書き直してしまったら、have という間違いがどこにも残らなくなってしまうのです。後になってテスト勉強をしたときに have は間違いだという宝物に気づかずに、また同じ間違いを繰り返すかもしれません。

それでは、宝物を失わないためにはどうしたらよいのでしょうか。それは、赤線で have と引いて、そのすぐ上か下に赤で has と書いて、「She は3人称単数だから has だ!」ということを確認するのが Good です。宝物の意識は持っていないが、「すでにやっています」という人もいますので、その人は継続してください。ただ、もし君が消しゴムを使いすぎる人ならば、思い直して上記に書いたことを実践して下さい。絶対に力がつきます。

では最後に、「授業を活用する」ための3か条について確認します。

- ①問題の答えは丸写しをするのではなく、まずは自分で考えるべし（間違えてもOK）！
- ②間違いは決してそのままにせず、なぜ間違えたのかを追求して理解すべし！
- ③消しゴムの使いすぎには注意すべし（宝物を失うな）！